

2026年1月14日

各位

株式会社フジテレビジョン

サステナビリティ経営委員会 第8回外部アドバイザーボードの開催について

当社は1月9日、サステナビリティ経営委員会（以下、「委員会」）の第8回外部アドバイザーボードを開催いたしましたので、お知らせいたします。

1. 1月9日開催の第8回外部アドバイザーボードの内容

会議では2025年12月19日に開催した第9回委員会における議論について、各アドバイザーから以下のとおりコメントがありました。

大崎麻子氏

「サステナビリティ経営委員会での全社横断的な議論と意思決定は、依然重要である。9月の第6回委員会では、データで明らかになったジェンダーギャップの解消に向けた課題について、WEPsに基づき、『制度』『組織風土』『コンテンツ』の3層に分けて抽出した。それを受けて、プロジェクトチームでは、現場の感覚を活かしながら、あるべき姿を描き、構造変革を促す施策案を洗い出している。今後、ロードマップを完成させるが、委員会ではその実現について議論し、道筋をつけていただきたい。」

加藤茂博氏

「フジテレビは各部署で専門性の高い業務については成果が出ているが、人的資本経営など部署横断で取り組まないといけないテーマについて、新しいムーブメントを起こしてしっかりと推進していく機能を高める必要がある。経営トップがコンテンツカンパニーへの転換を掲げているが、フォロワーがそれをきっちりと実現していく必要がある。人権やマネジメント・評価などあらゆる課題で、研修・検証をして問題が起きないようにするだけでなく、新たな挑戦をモニタリングし、何か起きた時に自分たちで軌道修正できるような能力を会社として身につけるフェーズに入ってきたと思う。」

佐藤暁子氏

「人権尊重については『取り組むべきもの』という一定の認識が広がってきており、それは一つの成果だと思う。その上で、ジェンダーの観点からのリスクの高さや、長時間労働も含めて様々な人権リスクの温床がどうしても生じやすい業界であるということは深刻な課題であるということ、今一度しっかりと認識してほしい。その上で、解決にはどのようなアプローチがよいのか、あるいはどこにまだボトルネックがあるのか、現場の改善

施策とそこから経営までの距離感をどう縮めていけるかを議論・実践する場として、サステナビリティ経営委員会の機能をより強化していくことが大事だ。また、様々な番組制作において、コンテンツを人権尊重ベースにするためのアイデアも積極的に議論してほしい。」

これらの助言に対し、当社側からは、組織の責任範囲を気にして新しい課題への各部署のコミットメントが消極的になってしまう事例などをあげ、フラットな組織づくりを目指す考えや、人的資本経営の根幹となる、会社と1人1人が向き合える体制作りが重要である点を再確認したいとの考えを示しました。

2. 今後に向けて

第8回外部アドバイザリーボードで得た助言等を踏まえ、これまでに明らかになった構造的な課題や改革の現在地、今後進めるべき施策を適宜開示しながら、改革を進めてまいります。外部アドバイザリーボードは今後も継続的に開催し、外部有識者から得た助言等を、フジテレビの再生・改革に向けた各種施策に反映していく方針です。

以上